基礎からわかる



置る 口腔健康管理

下山和弘 荖

口腔健康管理は、 QOLの維持・向上を 目指すものである

口腔健康管理は、 社会生活を よりよいものにする



口腔健康管理は、 口腔衛生管理と口腔機能管理の 両輪からなる

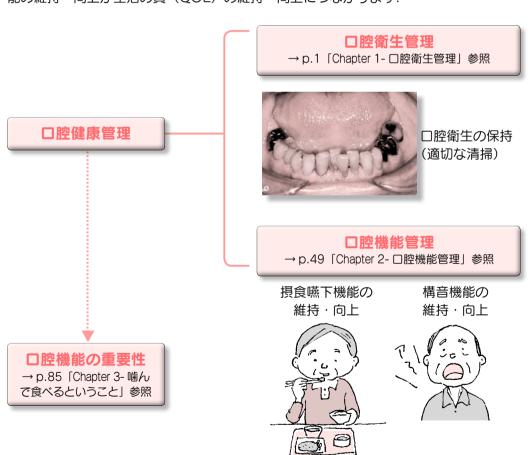
医歯薬出版株式会社

りening 巻頭ダイジェストSt

1―口腔健康管理とは

□腔健康管理の目標は、生涯を通して□腔の問題に苦しむことなく人生を楽しめるようにすることです。

□腔健康管理の基本は、□腔衛生と□腔機能の維持・向上です。□腔衛生と□腔機能の維持・向上が生活の質(QOL)の維持・向上につながります。



2一介護予防

口腔機能向上

口腔衛生を基本とした口腔機能の向上 ••••

- → p.1 [Chapter 1- □腔衛牛管理]
- → p.49 [Chapter 2- □腔機能管理]

栄養改善

- → p.85 [Chapter 3- 噛んで食べるということ]
- → p.105 [Chapter 4- 高齢者の栄養]



運動機能障害に対する理解と配慮

- → p.85 「Chapter 3- 噛んで食べるということ」
- → p.145 [Chapter 6- 高齢者の身体的な特徴]







3-口腔清掃および歯科治療

- ①アセスメント
- ②診断
- ③プラン作成
- ④実 施
- ⑤再アセスメント







□腔→p.1 「Chapter 1- □腔衛生 管理 |

→ p.49 [2. □腔機 能管理」参照

栄養→ p.105 「Chapter 4- 高齢者の

栄養」参照

安全・安楽→ p.127 「Chapter 5- 安全・安 楽の確保」参照

身体→ p.145 「Chapter 6- 高齢者の 身体的な特徴」参照

心理・精神→ p.185 「Chapter 7- 高齢者の 精神的な特徴」参照

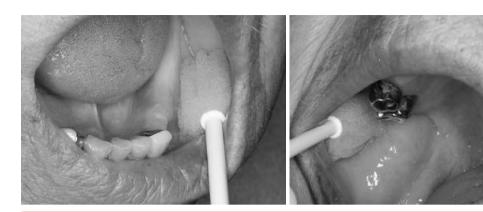


図 19 スポンジブラシ

口蓋や口腔前庭などの清掃に用いる。歯に付着した歯垢の除去には適していない。商品によって柄の材質やスポンジ部分の形状が異なる。使用目的、使用方法に合ったブラシを使用する。写真はバトラー口腔ケア用スポンジブラシ(サンスター)である。



図 20 粘膜ブラシ

粘膜の清掃に用いる.歯の清掃も可能であるが,軟毛であるため効率はよくない.写真は口腔粘膜ケア用ブラシのエラック 510(ライオン歯科材)である.

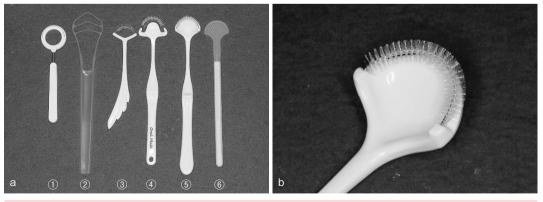


図 21 舌ブラシ

各種の舌ブラシが市販されている. 一般的にはブラシタイプが使いやすい. 使用目的, 使用方法に合ったブラシを使用する. ここでは市販されている商品の一部を紹介する.

a: ①舌クリーナー(エムケア)、②タングクリーナー(テペ、クロスフィールド)、③タングメイト(デントケア)、④オーラルメイト(デントケア)、⑤マウスピュアフレッシュメイト K (川本産業)、⑥タンクリーナー(広栄社)、

b:マウスピュアフレッシュメイトK(川本産業)の頭部.



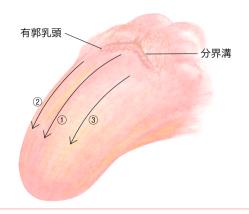


図 22 舌ブラシの使用方法

舌表面、舌乳頭を傷つけないよう、また除去された舌苔を咽頭に入り込まないよう、分界溝の前方から舌尖に向かってブラシ を軽く当てながら動かす(右). 舌苔を 1 回で除去しようとせず、舌の継続的な清掃によって徐々に舌苔を除去する. 写真は オーラルメイト (デントケア) である.

表 36 粘膜の清掃方法

The state of the s	
口腔内が乾燥しているときには口腔内 を湿潤させる	剝離粘膜上皮膜は十分に湿潤させる.
乾燥した清掃用具を口腔内では使用し ない	ブラシに水を吸わせたあと,水分を絞って使用する.
清掃用具に付着した汚れを取り除きな がら清掃を行う	付着した汚れは流水などで洗浄する.
咽頭方向に汚れを移動させない	口腔内では後方から前方に向けて清掃用具を移動させる.
粘膜を傷つけない	力の大きさや刷掃回数などを無理のない程度にする. 剝離粘膜上皮膜や痂皮を無理に除去しない. 味蕾を傷つけない.
嘔吐反射を誘発させない	舌根部,咽頭後壁などに対する刺激により絞扼反射, 嘔吐反射が誘発される. 舌清掃では分界溝の前方を清掃する.
清掃の最後に取り除いた汚れすべてを 含嗽や洗浄で口腔内から除去する	吸引が可能ならば洗浄と吸引を同時に行う.

です (表 36). 口腔ケア用ウェットティッシュ・ウェットガーゼは大雑把に 汚れを除去するときに使用します (**図 23**).

3) 口腔湿潤剤

要介護高齢者の口腔乾燥は口腔健康管理上大きな問題です。口腔乾燥がある 場合には口腔粘膜に剝離上皮膜が付着することがあります 29,820. また剝離上 皮膜を無理にはがして出血させた結果、痂皮が形成されることがあります。口 腔内の湿潤を常時保つことや湿潤状態にして口腔清掃を行うことが望まれま す. 口腔内の湿潤保持や口腔内に乾燥した剝離上皮膜の軟化のために口腔湿潤 剤が用いられます. 水は口腔内での流れのコントロールが難しいため、誤嚥の